令和２年度　第２回久御山町上下水道事業経営審議会　議事要旨

日　時	令和２年 10 月７日（水）　14:00～15:30
場　所	久御山町議会棟４階特別会議室
次　第	１　開会 ２　会長挨拶 ３　諮問 　久御山町下水道ビジョン及び経営戦略の策定について ４　議事 　(1) 下水道ビジョンについて 　　ア　下水道ビジョンの策定にあたって 　　イ　下水道事業の概要 ５　閉会
出席者	（委員） 西垣会長、西村副会長、松若委員、片岡委員、三井委員、奥戸委員、林委員 　欠席：水野委員 （事務局） 岡本事業建設部長、樋口上下水道課長、高山課長補佐、川越課長補佐、 奥田課長補佐、岩上係長、有限責任監査法人トーマツ２名

会議

１　開会

※　会議成立の報告

※　関係人の出席の確認

※　配布資料の確認

２　会長挨拶

・感染症のまん延の中で、経済をはじめるということと、感染症の予防を同時に行っていくことは難しく、皆さんそれぞれの立場で難しい選択にあたられていると思う。

・本日は前回に引き続き、久御山町の下水道ビジョンと経営戦略について、いよいよ本格的な議論に入っていく。

・このような社会資本系の施設整備も、今後の人口減少の中でどこまで整備するのかということ、それから整備の規模を小さくすれば、それだけ経営が厳しくなるという難しい綱渡りを要求される。

３　諮問

久御山町下水道ビジョン及び経営戦略の策定について

－事務局（岡本事業建設部長）諮問書代読－

【岡本事業建設部長から西垣会長に諮問書を手交】

4　議事

(1) 下水道ビジョンについて

ア　下水道ビジョンの策定にあたって

－事務局説明－

<u>委員</u>

・投資・財政計画の策定について、収支ギャップが生じた場合、その解消方法として広域化や民間委託といったかなり画期的なアイデアにシフトしなければならないと思われるが、そういった画期的なアイデアを入れるには、情報収集をし、それを数値に落とし込むといった作業が必要となる。どの程度ギャップが出た場合にそれを考えるのか、それを見越して計画を立てるのか、その辺りの考え方を聞きたい。

<u>事務局</u>

・投資試算、財源資産に収支ギャップが生じた場合には、まずは投資試算における投資スピードの見直しや、財源試算における一般会計繰入金のあり方、使用料の見直しなどにより再試算を行い、調整をしながらギャップを埋める作業となる。

・抜本的改革についても同時進行的に検討が必要ではあるが、長期的な視点になると考えている。

<u>会長</u>

・抜本的改革は、あくまでも長期構想をする際の基本に走るもの。

・財源試算の中では、今後、国や府で用意しているような資金をどう活用するのか、企業債をいかに発行するのか、使用料のあり方がどうなのかなどを具体的に検討することとなる。

<u>委員</u>

・久御山町は、終末は流域下水道であり、管路の布設が主な投資の形となるが、この投資額の合理化とは、どういうことを意味しているのか。

<u>事務局</u>

・ご指摘のとおり本町は終末処理場を有しておらず、木津川流域下水道と京都市公共下水道に流入して、負担金を支払っている。

・今現時点で、京都府の方でも、木津川流域下水道も同じように、経営戦略を策定するために経営審議会を開催し、そういった議論をしている。

・本町においては整備が一定完了している中で、今後は、老朽管の修繕・改築をどのように行っていくか、そこで投資額の合理化を図っていくことを考えている。

<u>委員</u>

・具体的にはどういうことか。

<u>事務局</u>

・例えば修繕・改築では、実際にカメラ調査を実施して老朽化具合を測りながら、実現可能な投資スピードや工法の検討をし、実現可能性を考えながら合理化を図っていくということ。

<u>事務局</u>

・平成30年度にストックマネジメント実施方針を策定し、令和元年度にストックマネジメント計画を策定しているが、その中で施設改築の平準化として、先50年において、

一気に改築すると施工年度と同じ額の波になるため、平準化を検討し、経費の削減等の計画を立てている。
・久御山町としてのリスクの考え方もあり、なにを基になにをリスクとして進めていくかというところで、道路陥没による人身事故であるとか、下水道使用者への使用制限というリスクの優先順位を決めて、修繕・改築を進めていくこととしている。

<u>委員</u>

・経営戦略の中心が投資・財政計画となると思うが、投資の妥当性、ストックマネジメントのベースの位置づけをしっかりしなければ、収支計画等もいろいろな形でブレが出てくる。
・財源構成の検討というところで、延いては使用料の見直しというところにも踏み込むところが出てくると思うので、町民に対して、きめ細かくパターン化しての提案が必要と考える。
・抜本的な改革の検討で広域化等とあるが、近隣市町村の統合など、どの部分まで目指すのかというところの現状のお考えを教えていただきたい。

<u>事務局</u>

・本町は木津川流域下水道で汚水処理をしていただいており、その中で、流域では今は容量が足りないということで拡張事業をしている状況だが、近隣市町でも本町でも人口減少が進む中で、今後は需要が段々と減少することが予測される。そうした時に、それに対応するためのスケールメリットを考える中では、広域化、広域連携を考えていかなければならないという話は、京都府からも挙がっており、本町でもそのように考えている。
・ただ、今現時点では、城陽市でも開発が進み、学研都市の方ではまだ人口も増えており、処理水量も増えているため、木津川流域下水道に参加している市町の中では、広域化という点では実感がない部分があるが、今後はそれも見据えた中で考えていかなければならないということは理解している。

<u>会長</u>

・木津川流域下水道については、施設の増設、拡張をするという計画で進んでいる。
・経営形態というところでは、他の自治体の例で、下水道についてコンセッション方式の検討をしているところがあったと思うが、把握しているか。

<u>事務局</u>

・浜松市でコンセッション方式を導入するという話があったが（一部導入済み）、諸外国の例を見ると、導入により結果使用料が高くなり、また公営に戻すといったことが報告されているため、なかなか踏み切るだけの根拠がない。

<u>会長</u>

・検討事例などについて、一度資料として出していただきたい。

イ　下水道事業の概要

－事務局説明－

<u>副会長</u>

・流域下水道に参加し、あるいは京都市の下水処理場を利用ということだが、他の自治

体、府との関係で、インフラ整備において、久御山町でどこまで決定できる形になっているのか。

事務局

・本町は京都府の流域下水道の洛南浄化センターに流入しており、そこは６市２町の参加があるが、連絡調整会議という会議があり、その中で京都府に要望をし、また、京都府から整備の進め方の説明があったりと、そういったところで調整しながら進めている。
・京都市には、本町だけ接続させていただき処理場に流入しているが、そういった調整はなく進めている。

副会長

・国の関連の会議に参加していると、マンホールポンプの維持管理が多いところではいろいろ大変であるとか、あるいは現実的に不明水の問題があるとか、あるいは分流式では最近雨の降り方が従来と違い、集中豪雨などで雨水の排除能力が従来で設計したものと違ってくるなどあるが、久御山町の場合では、全国で見られるそういった問題がどの程度あるのか。

事務局

・不明水については、やはり大雨が降った際は、洛南浄化センターから流量が過大になっているという連絡をもらっているが、ただ６市２町が同じところへ流しているため、どの市町から流入しているかは、なかなかわからない部分がある。
・本町としては、公共施設で不明水が流入していないかといった調査を実施し、その中で改善を図っている。
・ポンプについても、マンホールポンプは大丈夫だが、真空ステーションはやはり真空で引っ張るというシステムであるため、少し物が噛むと真空状態が作れないという状況となる。問題があった場合は、警報が鳴るようになっているが、警報が頻繁に鳴るなどの問題があり、その辺りの改善も図っていく必要があるのではないかと考えている。

副会長

・13 ページに久御山町の組織の情報が示されているが、計画は 10 年間、またその先も見越したものになるため、インフラだけではなく、運営している上下水道課のその組織の 10 年先、職員が長年携われてベテランになるなど、組織の人材を組織としてどうするかということもこの計画に入れるのか、あるいは上位計画で自治体としての人材確保があるのか、その辺りの考えを聞きたい。

事務局

・人材確保や人材育成については、本町は小さい町であり、職員は一般会計部局の方で採用され、出向のような形で公営企業会計部局に来るといった状況となっている。京都市のように上下水道局で人を雇うとなれば、人を確保し育てるということも可能だが、本町は組織の小ささ故に、優秀な人材が来ても２、３年で異動し、また新しい人を育てていかなければならないという状況となっている。

会長

・施設の管理ということも大事だが、人材の育成や人材の確保ということも、今後難し

い問題であり、そういった面でも、広域連携などで他都市と人材育成の連携をするといった観点も今後必要となる。

・上水道の場合には、用水供給のキャパシティがあり、久御山町でも大きなキャパシティを持っているが、下水道の場合は、どれだけ流せるというキャパシティの契約はないのか。基本的には流した分だけということか。

事務局

・下水道では、流域下水道を基本として上位計画があり、併せて各市町村で事業計画を立てている。排水量に関しては、市町村で統一された原単位があり、それに対して区域の面積を計上し、併せて工場等の特別に多いところを加算して計上することにより、各市町村の流量を決めている。そのうえで、洛南浄化センターに流す流量が決まるということで計画されている。

会長

・各市町村の規模を係数で固めて、それに比例して負担金が決まるということか。

事務局

・負担金（維持管理負担金）については、実際に流した汚水量で各市町で分ける形で算定しており、水道事業のように、基本の水量が決まっていて、その分は必ず払わないといけないという訳ではない。

副会長

・汚水量は計測した結果か、それとも原単位の積上げで出された数値が、負担金の根拠になるということか。

事務局

・負担金の支払いについての汚水量は、流域下水道が設置している流量計で流量を計測して、それによって流域下水道の経費を各６市２町で実際に計測した汚水量で割る形で算定している。

副会長

・各市町の流量計の実測値があるならば、不明水の量もわかるのではないか。

事務局

・実際に流れている汚水量を計測しているが、町で使用者からの使用料の基礎としている有収水量は、水道メーターで上水を計測した水量となっている。実際に不明水が混ざると、町の有収水量より汚水量が多くなり、不明水が出ているのではないかという話はあるが、やはり６市２町の広域の中で不明水が混ざるということなので、なかなかどこで混ざっているという断定は難しいところがある。

・そういったことも踏まえて、京都府から調査の依頼があり、調査をしているという状況となっている。

委員

・経験上、不明水の発生しやすい環境として、マンホールの蓋に亀裂が入ることや、蓋がズレていること、傷んでいることなどで、雨水が流れ込むことが考えられる。

・自社でも、そういった事例が発生すればマンホール蓋の布設替えをよく行うが、それがあまりにも数が多ければ、そこで染み込んでくる程度ではあるが、数によっては随分と量が出るということはありえる。

・自社では井戸水を使用しており、井戸水のメーターを基に排水量を算定しているが、それが中継槽などに流れ込めば、不明水として下水に流れるということになる。

事務局

・不明水の発生原因として、大きな会社、施設では、建築の時に雨水を誤接続されているという場合もある。

・調査についても、配管が目に見えるところ見えないところがあり、一軒ずつ立ち入ってというのも難しく、なかなか解決に至らない。

・本町の場合では、まずは本町の公共施設にそういった誤接続がないかの調査を始め、京都府の施設についても、改善について指導している。

委員

・資料２の総務省からの資料に、投資・財政計画は基本10年以上の策定ということや、大きく50年や30年の長期的なパターンを設けなくてはならないということ、人口の減少や低密度化ということが出てきている。また、資料１の５ページ、表の２．１と２．２を見ると、計画人口が減少しており、実際にも人口が減ってきている。読みづらいところではあるが、先10年の計画の中で、どれくらいの収入の減になるのか、それが鍵になってくると感じている。

会長

・今後の人口予測などの資料を、適宜出していただきたい。

・次回の議論は、現状と課題や将来の事業環境といったところの議論となるのか。

事務局

・第３回では、現状と課題、将来の事業環境を予定しており、本町下水道事業が抱えている現状と課題を抽出し、今指摘のあった今後の人口減少の中で使用料がどうなるのかを見込んだうえで、財源のあり方などを示していく必要があると考えている。

・その後は、第４回では決算報告を予定しているが、第５回に、現状と課題、将来の事業環境の結果を踏まえて、具体的施策や目標を定めていきたいと考えている。

【事務局報告】

１　日程調整

・第３回予定　令和２年11月24日（火）午後２時00分～

２　委員報酬について

5　閉会

※　閉会の挨拶

事務局

・次回からは、現状と課題など具体的な章に入ってくる。

・水道料金の改定の際にも、心得ているつもりの意見の中で、住民や企業に対して、パターン的な公表をもって、本日の資料の中にもあるとおり見える化というところに十分気をつけながら、ご審議いただきたいと思っている。

【散会】

以　上